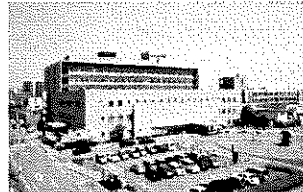


地域医療連携推進法人制度の 活用について ～ご説明の前に～



県立姫路循環器病センター



製鉄記念広島病院

兵庫県病院局病院事業副管理者
佐藤 二郎

県立姫路循環器病センターと 製鉄記念広島病院の現状と課題

診療科について

- 姫路循環器病センター
循環器専門病院のため、合併症への対応が不十分
- 製鉄記念広島病院
循環器疾患に対する医療が充分ではない

高齢化を見すえ、診療科を揃え、合併症等に対応することが必要

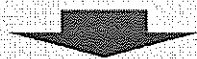
救急への対応について

- 救急医の確保が不十分
- 不足する診療科があること等により、救急対応が充分でない

中・西播磨圏域における救急医療体制の更なる充実が必要

統合再編の基本的な考え方

中・西播磨圏域における医療の現状、両病院の診療機能、施設の状況等の現状と課題を踏まえ、今後の医療制度改革の動向に対応し、安定的・継続的に良質な医療を提供するため、両病院を統合再編し、新病院を整備



一方で統合再編にあたって大きな課題がある

統合再編にあたっての大きな課題

組織の異なる病院の統合再編は、「組織風土の違い」といった大きな課題がある。

例えば、

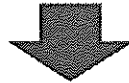
- ①スタッフの勤務体制
- ②研修体系
- ③職員の意識
- ④各種マニュアルの相違

(例:看護手順、看護計画、手術手順書など)

その他にも、1つの病院になるにあたり、課題が山積。

地域医療連携推進法人の活用

統合再編成功のポイントは、病院長のリーダーシップであり、文化・風土の異なる病院を一つの方向に導く必要がある（新病院の理念の共有）。



しかし、今回の統合再編は、県立病院と民間病院の統合再編であるため、新病院の理念の共有に限界がある（組織も異なるため、この体制のままでは、両病院の意思疎通に限界）。

地域医療連携推進法人の活用

地域医療連携推進法人制度の活用により、法人の理事長を中心に5年後の新病院開院に向けて各スタッフの理念の共有等を図っていく。

